

SEE NB. 10/679, 628  
LUCIANO TASSARO

公開実用平成 4-58254

AL

2

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U)

平4-58254

⑬ Int. Cl. 3

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 平成4年(1992)5月19日

A 61 M 3/00  
31/00

8718-4C  
7603-4C

A 61 M 3/00

Z

審査請求 有 請求項の数 4 (全 頁)

⑮ 考案の名称 肛門薬投与器

⑯ 実 願 平2-101370

⑰ 出 願 平2(1990)9月27日

⑱ 考 案 者 橋 岡 龍 也 大阪府枚方市香里ヶ丘6丁目10番 2号306

⑲ 出 願 人 橋 岡 龍 也 大阪府枚方市香里ヶ丘6丁目10番 2号306

⑲ 出 願 人 日本クリンゲージ株式 東京都中央区銀座1丁目13番1号  
会社

⑳ 代 理 人 弁理士 旦 範 之 外2名

明 細 書

1. 考案の名称 肛門薬投与器

2. 実用新案登録請求の範囲

- (1) 硬質ないし半硬質の弾性材料から形成され、側壁面と先端に軟膏状の薬剤が通過し得る孔が形成された挿肛管部と、半硬質材料から形成された中空の薬剤収容部とから少なくともなり、前記挿肛管部と前記薬剤収容部とがそれぞれの内腔が連通するように結合し、かつ、前記挿肛管部の入口側に、該挿肛管部内に移動し得る大きさの移動部材を挿入したことを特徴とする肛門薬投与器。
- (2) 前記移動部材が球体であることを特徴とする請求項1記載の肛門薬投与器。
- (3) 前記した挿肛管部および前記薬剤収容部に軟膏状薬剤を充填したことを特徴とする請求項1記載の肛門薬投与器。
- (4) 前記した挿肛管部に潤滑剤を、前記薬剤収容部に軟膏状薬剤を充填したことを特徴とする請求項1記載の肛門薬投与器。

3. 考案の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

本考案は痔疾患治療薬投与器に関し、とくに肛門内に治療薬を直接投与するに適した肛門薬容器兼用の投与器に関する。

〔従来の技術〕

従来痔疾患に用いられる局所治療薬の形態としては、座薬または軟膏があった。しかし座薬は肛門に挿入すると肛門管部分を通過して直腸内に入ってしまうために、肛門管内壁に生じた裂肛に対して直接作用しない。また、肛門管内に座薬がひっかかると極めて気持が悪いという欠点がある。

薬用軟膏は通常ガーゼ等にのぼして患部に直接塗布する方法が採られるが、裂肛は肛門管の内壁にあるため薬剤を塗布しにくく、また肛門管の奥にある肛門陰窩には一層薬剤投与が困難である。

そこで薬用軟膏を肛門管内に投与するために、注入管を用いる方法が利用されてきた。

この方法は、第3図に示すような先端に孔1d'が明いた挿肛チューブ1'を軟膏が収容された中空容器部2'に突設した特製の薬剤投与器を用い、肛門管内に挿入した挿肛チューブ1'から軟膏を押し出しながら徐々に挿肛チューブ1'を引き抜き、肛門管内壁の裂肛部分に薬剤投与するようにするものである。

〔考案が解決しようとする課題〕

ところで、前記した挿肛チューブを利用する方法にあっては、薬剤投与に習熟する必要があり、また、薬剤が挿肛チューブの先端からのみ排出されるので、該薬剤が直腸方向に流れてしまい患部に対して十分な薬剤投与ができる保証がなく、さらに、挿肛チューブを肛門管内に挿入する際に、患部に挿肛チューブの先端が当接して苦痛が伴うという問題点があった。

本考案は前記した問題点を解決せんとするもので、その目的とするところは、熟練を必要とせず、肛門管内に必要量の薬剤を確実に

投与することができると共に肛門管壁に対し垂直方向から薬剤投与ができ、更に、肛門管内への挿入時が円滑に行なえ苦痛を与えることがない肛門薬投与器を提供せんとするにある。

(課題を解決するための手段)

本考案の肛門薬投与器は前記した目的を達成せんとするもので、その手段は、硬質ないし半硬質の弾性材料から形成され、側壁面と先端に軟膏状の薬剤が通過し得る孔が形成された挿肛管部と、半硬質材料から形成された中空の薬剤収容部とから少なくともなり、前記挿肛管部と前記薬剤収容部とがそれぞれの内腔が連通するように結合し、かつ、前記挿肛管部の入口側に、該挿肛管部内に移動し得る大きさの移動部材を挿入したものであり、また、前記した挿肛管部および前記薬剤収容部に軟膏状薬剤を充填しても良く、さらに、前記した挿肛管部に潤滑剤を、前記薬剤収容部に軟膏状薬剤を充填しても良いものである。

〔作 用〕

前記した如く構成した本考案の肛門薬投与器は、挿肛管部を肛門管内に挿入するに際して薬剤収容部を押圧すると、該挿肛管部内に充填されている潤滑剤あるいは薬剤が移動部材の先端方向への移動に伴って先端の孔と側壁の孔より押し出されるので、この潤滑剤あるいは薬剤が肛門管内の滑りをよくして挿入を容易にするものである。

そして、挿肛管部を肛門管内に挿入し終わった状態において、さらに、薬剤収容部を押圧すると移動部材が挿肛管部の先端孔を塞ぐので、薬剤は挿肛管部の側壁の孔より押し出される。このようにすることによって、肛門管内壁に発生した裂肛部分のみならず肛門管壁に開口した肛門陰窩等の内部にも容易に薬剤を到達させることができる。

〔考案の実施例〕

以下、本考案の肛門薬投与器の一実施例を第1図と共に説明する。

図において、1 は外径約 8mm、長さ約 40mm の挿肛管部で、内径は約 6mm であり、その先端は砲弾形状となっている。挿肛管部 1 には、その断面における直径位置を一方側から他方側に貫通して、管の内腔 1a と連通する径約 1mm の孔 1b が、約 5mm 間隔で 3 個、相互に平行に設けてある。従って、孔 1b の外壁面の開口は、挿肛管部 1 の軸に対して互に 180° の位置に、それぞれ軸に平行な直線に沿って並んでいる。さらに、挿肛管部 1 の先端には径約 2.5 mm の孔 1d が設けてある。

また、2 は断面が楕円形で筒状の、半硬質の合成樹脂で形成された薬剤収容部であり、その開口端 2a は挿肛管部 1 の基端部分に続いて一体に形成された蓋部 1c の周囲に嵌合し密着している。さらに薬剤収容部 2 の外面には、挿肛管部 1 の開口の方向を現示するマークが設けられている。

3 はステンレスあるいは合成樹脂等の如く薬品に侵されることのない球体の移動部材に

して、前記した挿肛管部1における内腔1aの入口部に挿入されている。

このような本考案の肛門薬剤投与器の薬剤収容部2の内腔2bに軟膏状の薬剤aを充填し、また、挿肛管部1の内腔1aに潤滑剤bあるいは薬剤収容部2の内腔2bのに充填したと同じ薬剤aを充填する（第2図A）。

そして、挿肛管部1を肛門入口に押し当てた状態で薬剤収容部2を押圧すると、該薬剤収容部2における内腔2b内の薬剤aの圧力によって球体3が挿肛管部1の内腔1a内を先端に向かって移動を開始する（第2図B）。これにより、内腔1a内の潤滑剤bあるいは薬剤aは孔1d、1bより押し出されるので、肛門管内に湿潤性が与えられ挿肛管部1の肛門管内への挿入が容易となる。このように、内腔1a内の潤滑剤bあるいは薬剤aは先端の孔1d及び側部孔1bより押し出されながら挿入し、球体3が挿肛管部1における内腔1a内先端まで達すると、先端の孔1dは閉塞されて、この孔



1dよりの潤滑剤bあるいは薬剤aの押し出しは終了し、薬剤収容部2の内腔2bより押し出される薬剤aは挿肛管部1の孔1bから押し出され、肛門管内壁や肛門陰窩等に行き渡るように投与される（第2図C）。

また、挿肛管部1の肛門管内への挿入時に、孔1bの方向のマークを肛門時計の6時の方向に向けて行なえば、裂肛が発生し易い患部に対して重点的に薬剤を投与することができる。

さらに、挿肛管部1の先端の孔1dは内腔1a内の球体3によって閉塞されることにより、大量の薬剤が直腸に達するようなことも防止される。

〔考案の効果〕

本考案の肛門薬投与器は、挿肛管部の側壁に設けた開口を通じて軟膏状薬剤を押し出すことができる構造としたもので、痔疾患とくに肛門管壁に発生する裂肛、肛門陰窩に発生する肛門洞炎や肛門腺炎などの治療に当って、患部に対して直接に容易かつ効果的に薬剤を

投与することができ、治療薬投与に熟練を要しないという効果が得られる。

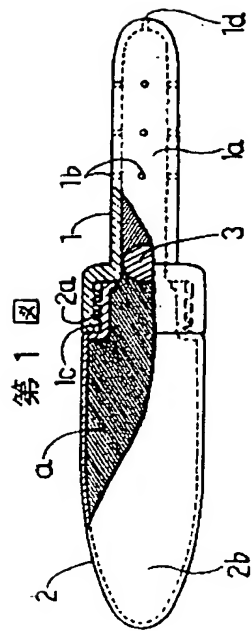
また、薬剤収容部を押圧することにより移動部材が挿肛管部内を移動して、該挿肛管部内に充填されている潤滑剤や薬剤が挿肛管部の先端の孔並に側孔から押し出されるので、肛門管内への挿肛管部の挿入が円滑に行なえ苦痛を与えることがない等の効果を有するものである。

#### 4. 図面の簡単な説明

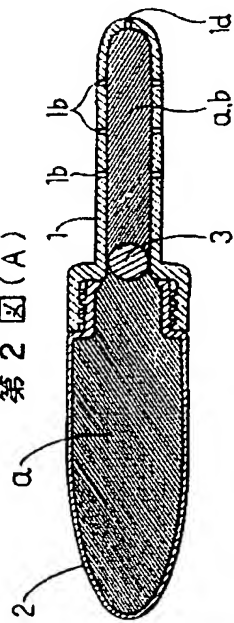
第1図は本考案に係る肛門薬投与器の一実施例を示す一部破断側面図、第2図A～Cは薬剤の押し出し状態を示す断面説明図、第3図は従来例を示す側面図である。

1 … 挿肛管部、1a … 内腔、1b, 1d … 孔、1c … 蓋部、2 … 薬剤収容部、2a … 開口端、2b … 内腔、3 … 移動部材

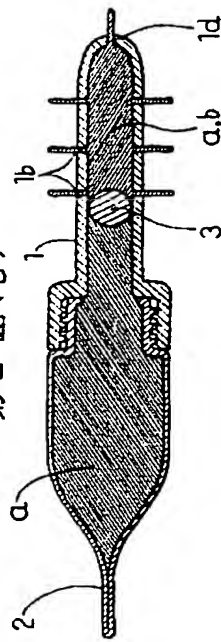
実用新案登録出願人      橋      岡      龍      也



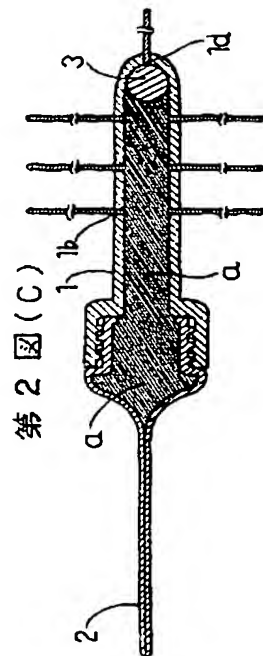
第 1 図



第 2 図 (A)

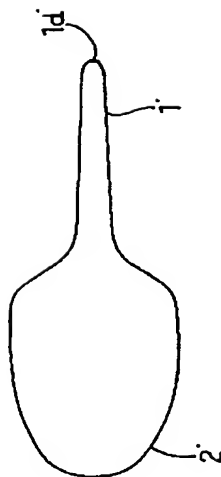


第 2 図 (B)



第 2 図 (C)

第 3 図



1...挿肛管部、3...移動部材

1b, 1d...孔、 1a, 2b...内腔

2...薬剤収容部、

実用新案登録出願人 橋 岡 雅 也  
同 理 人 日本クリンゲージ株式会社  
代 理 人 旦 範 之  
同 同 高 橋 功 一  
同 同 旦 武 尚